

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜北高等学校 学校運営協議会（第1回）
- 2 開催日時 令和6年5月31日（金） 13:30～15:30
- 3 開催場所 岐阜北高等学校 会議室
開催にあたり、委員による授業参観を実施した
- 4 参加者
会長 村瀬 忍 岐阜大学教授
副会長 飯尾 龍也 PTA副会長（PTA会長代理）
委員 可児さおり 保護司（早田自治会連合推薦）
澤井 隆彰 人材育成コンサルタント
高橋 信明 則武自治会連合会長
西川 光美 令和3年度PTA会長
古田菜穂子 同窓会（北斗会顧問）
吉田 和也 岐阜青年会議所理事
学校側 上田 和伸 校長
若原 稚子 事務部長
小島 和秀 教頭
日下部 光 教頭
小枝 千穂 教務主任
坪内有美子 進路指導部長
若狭 幹大 生徒指導部長
山田 雄太 カリキュラムデザイン部長

5 会議の概要（協議事項）

(1) スクールポリシー、教育指導の重点及び学校経営計画について

意見1：「荒野を拓く探究人」という教育方針は、大変すばらしい。本校生徒は、高校卒業後は社会的にも影響力を与えていけないのではないか。

意見2：勉強だけ頑張ってきた学生が、大学での就職活動では行き詰まるということがある。本校のスクールポリシーにある、自分自身が何をしたいのかという道を切り開いていく（荒野を切り開いていく）という感覚を高校生のうちから育むということはとても大切である。

意見3：スクールポリシーが生徒に浸透し、学校全体でスクールポリシーを大切にしていると感じられる。これは、学校での諸活動の中で、言葉だけではない手触り感として生徒が肌で感じているからではないか。学校全体が生徒の未来を見据えた指導をしているということを感じることができる。

意見4：「大人の経験値だけでは対応できない時代、過去にない時代をこれからは生きていかなければならないということを生徒にきちんと伝えたい」との学校説明には共感ができる。100%肯定できない社会の動きや、尊敬されるべき大人がどこにいるのか、どんな生き方をしていけばよいのか、善悪の判断やSNSの投稿を含め、生徒が持ちそうな不安に学校が対応するという事はとても大切である。

意見5：本校一年生の探究活動は、積極的に自由に活動しているという印象である。中学校での学びを生かして、本校でより活用しているということが見受けられた。一年生は、本校の魅力を写真に撮り、グループごとに発表するという活動をしており、とてもすばすばしかった。

(2) 交通指導・マナーについて

意見1：交通ルールについて（登下校）どのような指導をされているのか。

⇒特別に何かをしているということはない。命を大切にしようということは常日頃指導している。今年は例年に比べて格段に交通事故数が少なかった。生徒指導だよりや、MSリーダーズが交通事故防止の動画を作成して流す活動などを行っている。日常的な取り組みが成果を上げているものと思われる。

意見2：保護者の学校への自動車での送迎についてはどのように指導しているのか。

⇒今年度は、自動車での送迎は減っている。PTA入会式で保護者の方から全体に声を掛けていただいた成果ではないか。

意見3：自転車通学時にヘルメットをかぶっている生徒が多くなってきた。歩行者用信号機がない所では、車道信号が赤でも道路を渡ってしまうなど、危険な自転車運転を見かける。場所によって大変に危険なので気を付けてほしい。

(3) その他

意見1：岐阜市の後楽荘での茶道部の活動において、高校時代のこのような本物の経験はとても印象に残るはずである。生徒が学校外で体験できるような仕組みづくりをしてほしい。

意見2：本校は、良いところを残しつつ進化している。校舎の中で学べる場所が多く設置されており、図書館も居心地のよい場所になっている。

意見3：本校の生徒たちは、地域の誇りである。今後も他の模範となるような振る舞いや行動を取り続けてほしい。

意見4：生徒が自分たちで発案してボランティアなどができるとよい。高校は地域の防災の拠点となる場所でもあるので、地域のために何かする（ゴミ拾いなど）ことができる。ボランティアは強制ではないので、良い社会を作るために何ができるのかを常に考え、社会に出た時に無関心でも無関係ではない、どこかで繋がっていると感ずることができ、よりよい社会に結びついていくはずである。自分たちのひとつ行動で何かが変わるということを生徒に伝えてほしい。

意見5：大学の選択において、先進・先端・グローバル・社会的となり最先端を目指してしまいがちだが、人材の育成に重きをおいた大学や地域に根ざした大学の選択も進路指導として考慮してほしい。

意見6：将来リーダーになるという意識を持っていけば、周囲に影響力のあるリーダーとなっていけることに気付いてもらいたい。

意見7：今年に岐阜県で実施される全国総合文化祭の大きな特徴は、障害を持つ人も持たない人も交じり合ってお互いを認め合っていくこと。人の多様性を認め合って、アートや文化の力で社会問題を解決していこうということを本気で実現に向けて取り組んでいる文化祭である。様々な障害はあるが、障害も多様性であり、それをどう交じり合っていけるのかが課題だと考えている。アートや文化は答えがない分その課題解決に繋がるのではないか。

⇒様々な障害をもった生徒が本校にも在籍している。障害がある無しにかかわらず、生徒たちは、お互いに認め合って活動している。

6 会議のまとめ

第1回の学校運営協議会では、スクール・ポリシー、教育指導の重点及び学校運営計画、各分掌の今年度の方針と重点について学校職員から説明したうえで、協議した。スクール・ポリシーや探究活動等の本校の取組について高い評価が得られたとともに、全委員より今年度の本校の学校経営方針について承認が得られた。